

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！



商船三井・神戸製鋼所CO2削減

豪州から日本への鉄鉱石輸送専用船 豪州航路航海にCO2排出オフセット 持続可能な社会の実現に向け取り組み

グリーン社会へ 両社が貢献

株式会社商船三井(東京都港区、社長：橋本 剛氏)と株式会社神戸製鋼所(兵庫県神戸市、社長：山口 貢氏)は、豪州から日本への鉄鉱石海上輸送において使用した燃料での二酸化炭素(CO₂)排出を、インドネシアのRimba Raya Biodiversity Reserveプロジェクトから創出されたボランティアカーボンクレジットの活用により、オフセットする取り組みを実施した。

両社は、持続可能な社会の実現のため、CO₂削減についてサプライチェーン全体での最適かつ効果的な取り組みが不可欠と考えている。

商船三井が、2050年ネットゼロ・エミッションの目標に向けて今から取り組める施策について他社との共創を模索する中で、グループのマテリアリティとして「グリーン社会への貢献」を掲げている神戸製鋼所がその考えに賛同し、今回の取り組みの実施に至った。

実際のボランティアカーボンクレジットを活用したオフセット航海は、商船三井が運航し、神戸製鋼所との鉄鉱石長期輸送契約に専属で従事するケーブサイズバルカー「神山丸(しんざんま

る)」にて行われる。兵庫県加古川市に所在する神戸製鋼所加古川製鉄所を出港後、豪州のPort Walcott 港にて鉄鉱石を積み、加古川製鉄所にて荷揚げを完了する約6週間の航海となった。この間に神山丸が排出したCO₂量は、燃料油の製造から同船で消費するまでの全過程で約2,875トンと算出されている。

また今回使用されたクレジットは国際的なカーボンクレジット基準管理団体Verraの認証を受け、過去5年以内に創出されたもの。加えて、このプロジェクトはCO₂の排出削減に寄与だけでなく、生物多様性の保全や地域住民の雇用創出といった相乗便益に貢献している。

両社は今回の取り組みを契機に、サプライチェーン全体での効果的なCO₂削減ならびに社会貢献を目指し、各ステークホルダーとの共創を加速したいと考えている。

商船三井 環境への取り組み

商船三井グループは、2021年6月に発表した「商船三井グループ 環境ビジョン2.1」で、2050年までにネットゼロ・エミッションを達成することを目標としている。ゼロエミッション船



の研究開発、低炭素船への船舶更新といった最大限の排出量削減を第一に取り組みつつ、日本企業として初めて脱炭素技術の需要喚起を目的としたファースト・ムーバース・コアリションに参加するなど、多様なステークホルダーとの共創を通じて、自然および技術ベースのネガティブ・エミッションの創出にも取り組み、ネットゼロ・エミッションを実現している。

今回の取り組みは、5つのサステナビリティ課題の中でも特に「Environment-海洋・地球環境の保全-」、「Human & Community -人の活躍と地域社会の発展-」にあたる。

神戸製鋼所 環境への取り組み

KOBELCO グループは、2021年5月に発表したKOBELCO グループ中期経営計画(2021~2023年度)の中で、2050年ビジョンとして、生産プロセスにおいては「カーボンニュートラルへ挑戦し、達成を目指す」こと、また技術・製品・サービスによるCO₂排出削減貢献は「1億トン以上」を掲げている。

すでに、多様な事業を営む総合力を生かした高炉工程でのCO₂排出量を大幅に削減できる技術の実証に成功しており、この技術を活かした低CO₂高炉鋼材「Kobenable Steel」を国内で初めて実用化した。今後も引き続き様々な分野で広くグリーン社会に貢献するとともに、多様な事業・技術・人材の総合力を通じて、社会課題の解決に挑み、ステークホルダーにとって「かけがえない存在」であり続けることを目指していく。

今回の取り組みは、5つのマテリアリティの中で「グリーン社会への貢献」にあたる取り組みとなる。



(※資料提供：神戸製鋼所)



鉄鉱石輸送専用船 神山丸



Rimba Raya 生物多様性保護区 © Infinity Earth